

柳瀬川回廊 緑地管理方針 4月7日の調査結果から

緑地の場所	緑地の状況および植生の現状など	緑地の管理方針などの提案
野塩市有林 (640㎡)	1. 緑地の状況など 1). 旧河川敷で周囲よりも低いので、雨水の排水条件が難点と推測される。 2). 細長い地形で、道路と住宅地に囲まれている。 2. 植生の現状など 1). 南側は、概ね落葉樹林で、高木層はクヌギが多く、一部には主にヒノキの常緑樹帯がある。落葉樹幼木も育っている。 中低木層は実生で多種である。 下草層は多様で安定した群落をつくっている。 2). 北側は、混合樹林だが陽射しは少なく、常緑樹はシラカシが多い。ムクノキの大木はツル植物が目立つ。 中低木層はシラカシの幼木が多い。チャノキとナンテンが目立つ。 下草層は貧弱である。	1. 緑地の管理方針など 1). フェンスで囲まれた閉鎖管理が適正。 2). 緑地の幅が狭いので、高木層の高林化と倒木を防止する。 2. 植生の保全方法など 1). 現在の植生は安定しているので、急激な伐採等による変化は、外来種の侵入等が予想されて好ましくない。植生の応答に合わせて数年単位の保全方法を考える。 2). 南側は落葉樹林として保全していく。ヒノキ等常緑樹は順次伐採する。落葉高木も高林化への対策を施す。 中低木層は多様な自然植生に任す。 3). 北側は貧弱な林床から雑木林の多様な林床に変えていく。ムクノキなどの幼木が育つ環境にしつつ更新を図り、落葉樹林に移行させるため、シラカシやナンテン等の間伐・ツル植物(フユツタやアケビ)の除去をしながら、南側の植生に変えていく。 現在あるツルマサキに被われている大木のムクノキは自然植生のシンボルなので保護する。
中里緑地保全地域 (A～C)	1. 緑地の状況など 1). 長年、「守る会」と清瀬市との連携で保全されている。斜面は急峻で、表土の保全が必要な状態である。 2). 河岸段丘の崖線林・河畔林で、貴重な湧水源になっている。 2. 植生の現状など 1). クヌギ・コナラ・シデ等の明るい落葉樹林帯で、貴重な「武蔵野の里山」の植生が定着している。 特に、下草層は多様性豊かな安定した群落をつくっており、清瀬市が誇る多摩での代表的な緑地である。	1. 緑地の管理方針など 1). 緑地保全地域に接続した緑地についても、一体的に保全していくのが望ましい。 2). 河川と隣接しているので、柳瀬川回廊との一体性も配慮していく(水と緑へのアクセスの確保など)。 3). 「市民参加」の拡大を検討する。 4). 緑地管理者の東京都との協議が必要。 2. 植生の保全方法など 1). 高木層は、計画的な更新(萌芽更新および間伐、若木の育成)を行う。地域ごとの特徴や樹種ごとの群落は保全する。 川側の河畔樹種(ミズキ・エノキ等)は適切に管理して保全する。 2). 中低木層は、シラカシやヒサカキなど絶えず侵入する樹種は間伐で抑制する。 低木層は多様な自然植生に任す。 3). 下草層は、さらに多様性を目指す。そのためにササ刈りを徹底し、山野草の保護に努める。
台田市有林	1. 緑地の状況など 1). 長年、「守る会」と清瀬市との連携で保全されている。 2). 河岸段丘の崖線林で、豊富な湧水源になっている。 2. 植生の現状など 1). 比較的落葉樹の多い混合樹林で、自然植生と思われる多様な植生が定着している。 中低木層も、自然植生による多様性が見られ、今後さらに発達が期待される。 下草層も、混合樹林に対応した特色のある植生になっており、今後も新しい展開が予想される。	1. 緑地の管理方針など 1). 市有林として通路等良好な緑地に管理されている。台田団地側の水路敷についての管理方法は検討の余地があるので、区間ごとに管理方法を地先と協議していく。 2). 市有林になっていない崖線林も、今後「市有林」にしていき、長期的には「水路」の復元が望まれる。 2. 植生の保全方法など 1). 基本的には、自然植生を生かす保全方法を継続していく。現在の植生は地形等によって生育しているので、地形等の変更には注意が必要と思われる。 2). 中低木層については、特に繁茂する樹種などの抑制にとどめる。 3). 下草層は、さらに多様性を目指す。そのためにササ刈りを徹底し、山野草の保護に努める。 下草層の多様性を進めるため、急斜面維持対策が必要で、表土の流れ止等を施す。また、管理通路や階段の補修にあたっては、山野草(カタクリ・ヒロハノアマナ等)の保護移植などの配慮が求められる。

緑地の場所	緑地の状況および植生の現状など	緑地の管理方針などの提案
台田の杜	1. 緑地の状況など 1). 寄付地を含め、常緑樹林に移行している。大木も点在しており、管理のための調査などを要する状態である。 2). 崖線と平地の林地があるが、それぞれの経緯により管理方法が異なっているように思われる。 2. 植生の現状など 1). 平地林の植生は、シラカシの繁る暗い常緑樹林で、概ね下草層は貧相である。 2). 点在する大木も、健全な生育環境にあるとは思えない。	1. 緑地の管理方針など 1). 崖線林と接続した寄付地も、一体的に保全していくのが望ましい。エリアが広いので、エリア分けをして順次管理していく。 2). 墓地等の区画と、緑地とは明確に分離する方法を考える。 3). 柳瀬川回廊の散策通路は、2)の考えに基づいて変更する。 2. 植生の保全方法など 1). 市内では少ない常緑樹林として、健全な状態に保全していく。陽樹のシラカシを主とした常緑樹林とし、シュロなどは伐採し、陽射しも届く程度に改善する。山野草の回復を促す。 2). 大木の樹木は、健全な枝張りのできるスペースを確保する。 低木層と下草層は、多様な自然植生に任す。 3). 崖線部は密生しているので、間伐を行う。 崖上部には、崩落の兆候が発生している箇所もあるので、間伐においては、斜面の安定化対策も講じていく。
台田水路	1. 緑地の状況など 1). 一部スロープの通路を除き、閉鎖管理の状況である。 2). 河岸段丘の崖線林の延長として、緑地となっている。 3). 東側は水路で急峻な法面なので、緑地として活用は困難である。 2. 植生の現状など 1). 植生の調査を要するが、特徴のある樹種や大木も点在している。 特に、中低木層・下草層は貴重種も想定されるので、植生調査が必要と思われる。	1. 緑地の管理方針など 1). 上部の散策通路から崖線林を親しめるような方策を検討する。 2). 法面の崩落防止の対策も検討する。すでに崩落が起きている箇所は、防止対策を行い、崩落の拡大を止める。 2. 植生の保全方法など 1). 植生調査に基き、保全方法を検討する。 2). 希少種や大木の高木を中心として保全する。 高木の密生により、日照阻害や斜面崩落の原因となっている箇所に対しては、間伐や強剪定も必要である。竹林化に対しても、植生保全の観点から伐採を行う。